



倉橋 由美子 (1935~2005) 小説家

高知県生まれ。土佐高等学校卒業後、明治大学文学部に入学。1960年、在学中に発表した短編小説『バルタイ』が明大新聞「第4回学長賞」を受賞。平野謙の文芸時評欄でとりあげられ、有望な新人作家として注目される。1961年に女流文学賞、1963年に田村俊子賞を受賞。1966年より米国のアイオワ州立大学に留学。帰国後、1969年に『スマキストQの冒険』を刊行し、話題となる。1983年『アマノン国往還記』(泉鏡花文学賞)、1984年『大人のための残酷童話』はロングセラーとなる。また、シェル・シルヴァスタイン『ぼくを探しに』、サン=テグジュペリ『新訳星の王子さま』など翻訳も多く手がけた。現在も、国内外から高い評価を集めている。2006年、本学より特別功労賞を授与。



阿久 悠 (1937~2007) 作詞家・作家

兵庫県淡路島生まれ。明治大学文学部卒業。広告代理店勤務を経て、放送作家・作詞家として活動を本格化させ、「また逢う日まで」「勝手にしやがれ」「UF0」など数々のヒット曲を発表する。手掛けた5000曲以上にも及ぶその歌の世界は、アイドルから演歌、POPS、アニメ主題歌と多岐に渡り、世代を超えて日本人の心を捉え続け、「日本レコード大賞」「日本歌謡大賞」「日本作詩大賞」「古賀政男記念音楽大賞」などの賞を多数受賞。企画、審査員として携わったテレビ番組「スター誕生」では、森昌子、桜田淳子、山口百恵、小泉今日子など、多数のトップスターを輩出した。また、小説家としても活躍し、『瀬戸内少年野球団』は直木賞候補作となり、映画化もされた。1997年、第45回菊池寛賞受賞。1999年、紫綬褒章受章。

阿木 燿子 作詞家・作家・プロデューサー

横浜市出身。明治大学文学部(2008年特別卒業認定)。1975年「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」で作詞家デビュー。夫の宇崎竜童氏(本学法学部卒)と共に多数のヒット曲を世に送り出す。「横須賀ストーリー」で日本レコード大賞作詞賞受賞、1979年「魅せられて」、1986年「DESIRE〜情熱」で、それぞれ日本レコード大賞受賞。近年は、近松門左衛門の「曾根崎心中」とフラメンコを融合させた作品「フラメンコ曾根崎心中」の公演をプロデュースし、上演を重ねている。また、小説やエッセイ等幅広い執筆活動も続けており、2006年には映画「TANKA 短歌」で初の映画監督に挑戦。これらの活動が評価され、2006年、紫綬褒章受章。2008年、本学より特別功労賞授与。



高山 宏 作家・評論家・翻訳家

1947年岩手県生まれ、高知県育ち。土佐高等学校卒業後、東京大学入学。1974年東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。現在、明治大学国際日本学部教授。専門は17、18世紀を中心とする英文学であるが、翻訳のほか、建築・美術・文化史・科学など様々な分野での批評を展開している。主な著書に、『アリス狩り』、『目の中の劇場』、『ふたつの世紀末』、『近代文化史入門 超英文学講義』、『高山宏 表象の芸術工学』、『超人高山宏のつくりかた』、『かたち三昧』など。訳書は、デレック・ハドスン『ルイス・キャロルの生涯 不思議の国の数学者』、ルイス・キャロル『鏡の国のアリス』、B・スタッフォード『アートフル・サイエンス』、T・スクリーチ『春画』ほか多数。また、翻訳文化功労賞、国際翻訳大賞、日本翻訳出版文化賞、第7回竹尾賞など受賞多数。



管 啓次郎 理工学部教授・詩人・翻訳者

1958年生まれ。ワシントン大学(シアトル)博士課程中退。明治大学大学院理工学研究科新領域創造専攻デジタルコンテンツ系教授。「コンテンツ批評」と「映像文化論」を担当。現代世界文学、アメリカ先住民文化、翻訳論、トラヴェル・ライティングといった様々な分野の研究・翻訳を行っている。著書に『コロンブスの犬』、『狼が連れだって走る月』、『トロピカル・ゴシップ』、『コヨーテ読書』、『オムニフォン』、『ホノルル、ブラジル』、『本は読めないものだから心配するな』、『斜線の旅』が、主な翻訳にリオタール『こどもたちに語るポストモダン』、マトゥラーナとバレーラ『知恵の樹』、ラプージュ『赤道地帯』、コンデ『生命の樹』、グリッサン『〈関係〉の詩学』、アジェンデ『パウラ』、ベンダー『わがままなやつら』などがある。



陣野 俊史 文学部兼任講師・翻訳家・批評家

1961年長崎生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。明治大学大学院博士課程単位取得退学。明治大学兼任講師。専門は二十世紀フランス文学。その一方で、ロック、ラップなどの音楽、現代日本文学、スポーツなど様々な分野における批評・研究・翻訳活動を行っている。主な著書は、『ソニック・エティック ハウス・テクノ・グランジの身体論的系譜学』、『21世紀のロック(編著)』、『フットボール都市論 スタジアムの文化闘争』、『ヒップホップ・ジャパン』、『渋さ知らズ』、『フランス暴動 移民法とラップ・フランセ』、『じゃがたら 増補版』など。翻訳では共訳でドミニク・ボダン『フリーガンの社会学』、ノエル・シャトレ『最期の教え』、パティスト・ブランシェ、チボー・フレ=ビュルネ『ジダン』などがある。